

後遺症かなと思ったら

新型コロナウイルス感染症の後遺症への治療は、対症療法が中心となります。後遺症が疑われる場合は、激しい運動や無理な活動は避けて、かかりつけの医療機関や保健所等に相談してください。

後遺症は重症化するおそれもあり、悪化の予防のためにはご本人だけでなく、家族や職場など、周囲の理解も重要です。

また、都では、都立病院や公社病院において新型コロナ後遺症の相談窓口を設置しています。電話で症状等の相談をお受けし、症状に応じて医療機関等の受診につなげるなどの支援をしています。(相談無料)



都立・公社病院における「コロナ後遺症相談窓口」

都立病院	大塚病院	☎ 03-3941-3211(代表)
	駒込病院	☎ 080-5933-4582(直通)
	墨東病院 ※予約制	☎ 03-3633-6151(代表)
	多摩総合医療センター	☎ 042-312-9163(直通)
東京都保健医療公社病院	東部地域病院	☎ 03-5682-5111(代表)
	多摩南部地域病院	☎ 042-338-5111(代表)
	大久保病院	☎ 03-5273-7711(代表)
	多摩北部医療センター	☎ 042-306-3161(直通)

※受付時間等はwebサイトでご確認ください。



新型コロナウイルスの後遺症について



新型コロナウイルス感染症は、誰でもかかる可能性がある病気ですが、感染したときの症状は人によって様々です。同様に、感染時の症状の有無に関わらず、感染から回復した後も後遺症として様々な症状が見られる場合があります。ロングコビット(LongCOVID)と言います。この後遺症は20歳代・30歳代でも発症する割合が高いなど、どの年代でも認められています。

後遺症の原因としては、自己抗体、ウイルスによる過剰な炎症(サイトカインストーム)、活動性のウイルスそのものによる障害、不十分な抗体による免疫応答などが考えられていますが、明確にはなっていません。このため、後遺症の治療には長い時間がかかる場合もあり、感染から1年経過後も症状が見られる場合があります。

後遺症が疑われる場合は、かかりつけの医療機関、保健所、相談窓口等(詳細は裏面参照)で相談してください。

監修: 賀来 満夫(東京iCDC 専門家ボード座長)

作成: 東京iCDC 後遺症タスクフォース(五十音順)

大曲 貴夫(国立国際医療研究センター)

小坂 健(東北大学大学院)

小田口 浩(北里大学)

花木 秀明(北里大学)

平畑 光一(ヒラハタクリニック)

森岡 慎一郎(国立国際医療研究センター)

令和3年6月発行

編集・発行

東京都福祉保健局感染症対策部計画課

新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03(5321)1111(都庁代表)

印刷 株式会社明祥

登録番号 (3)66

体験談

体験談 - 1

パートナーから感染して、半年がたちます。嗅覚はだいぶ戻ってきましたが、味覚はまだ戻りません。不安な日々を過ごしていますが、できることをやっ
ていこうと思います。(20代・Kさん)



体験談 - 2

発熱やのどの痛みがありましたが、その後、全身倦怠感がなかなか回復しません。仕事に行くのも出来ない状況ですし、医療機関に十分な情報がなく治療にも時間がかかっています。(40代・Nさん)



症状紹介

新型コロナウイルスの感染から回復しても、様々な症状が後遺症として現れています。また、同時に複数の症状が現れる場合もあります。

強い倦怠感

身体や精神的に「だるい」「疲れた」「疲れやすい」という軽い症状から、「体が鉛のように重く感じられる」といった強い症状まで様々な症例があり、さらに、重症化し「筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群」に移行する事例も報告されています。



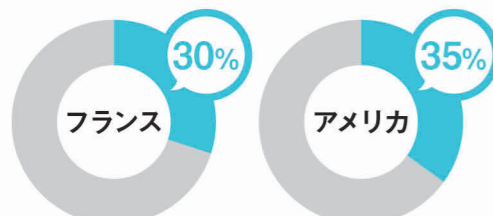
味覚・嗅覚障害

「味がわからない」、「においがわからない」「本来のにおいは別のにおいを感じる」など、コロナ療養後も引き続き味覚・嗅覚障害が発症している事例が報告されています。



後遺症に関するデータ紹介

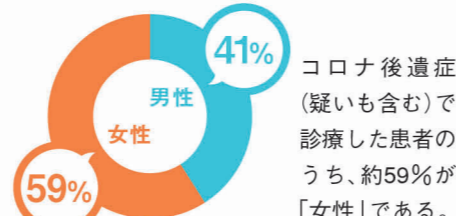
世界各国の状況



出典：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症診療の手引き 第4・2版」

フランスでは、回復者120人の約30%に記憶障害等の症状がみられ、アメリカでは患者270人の約35%が、診断から2～3週間経過後も「普段の健康状態に戻っていない」との調査結果が出ている。

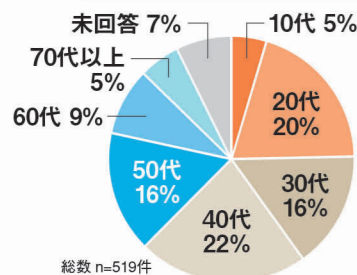
後遺症患者の男女比



データ提供：ヒラハタクリニック

コロナ後遺症(疑いも含む)で診療した患者のうち、約59%が「女性」である。

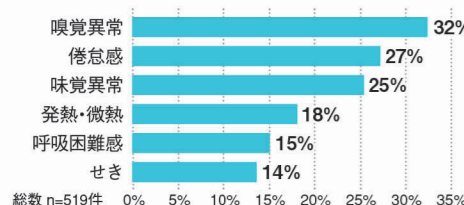
相談者の年代



「コロナ後遺症相談窓口」の相談者のうち、63%が40代以下の方となっており、若い年代からの相談も多い。

データ提供：東京都病院経営本部(都立・公社病院「コロナ後遺症相談窓口」相談状況(令和3年5月末時点))

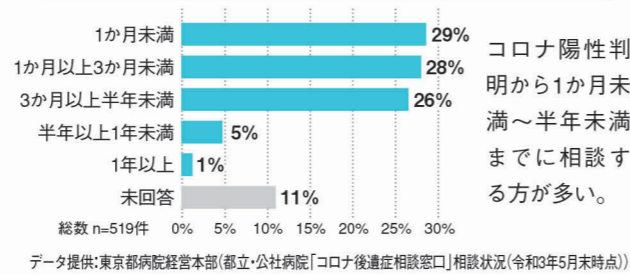
相談者の主な症状



相談者の症状は、嗅覚・味覚異常、倦怠感など様々である。

※1人の相談者が複数の症状をもつ場合がある。
データ提供：東京都病院経営本部(都立・公社病院「コロナ後遺症相談窓口」相談状況(令和3年5月末時点))

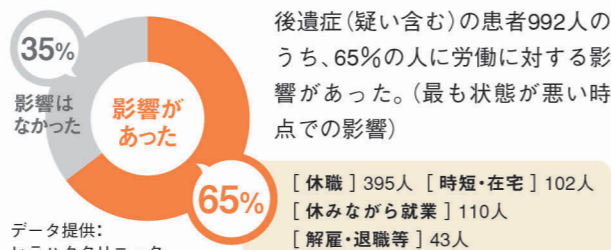
コロナ陽性判明から相談日までの経過日数



コロナ陽性判明から1か月未満～半年未満までに相談する方が多い。

データ提供：東京都病院経営本部(都立・公社病院「コロナ後遺症相談窓口」相談状況(令和3年5月末時点))

労働に対する影響率



後遺症(疑い含む)の患者992人のうち、65%の人に労働に対する影響があった。(最も状態が悪い時点での影響)

データ提供：ヒラハタクリニック

【休職】395人 【時短・在宅】102人
【休みながら就業】110人
【解雇・退職等】43人

せき・たん

激しい咳が継続するなどの事例が報告されています。



呼吸困難

呼吸困難感など呼吸器症状が持続し、中には息苦しさで日常生活に支障をきたす事例も報告されています。



発熱

一般的な発熱のほかにも、長期間にわたって「微熱」が続くといった事例が報告されています。



抜け毛

感染中に症状が現れ、療養後も症状が改善しないといった事例が報告されています。

